

特集  
朝ですよ  
一地域をおこす人々



神池活性化委員会の皆さんが、かかしと並んでハイチーズ  
(前列左から、岡本喜身さん、岡本享子さん、門脇二三夫さん。中段左から、岡本記征さん、野中幸雄さん。  
かかしと並んで左から、梅本雅生さん、為近多賀一さん、岡村喜美子さん、為近初男さん)

## かかしとフラフとこいのぼり。神池のおもてなし

5月。物部町の山間の車道を上へ上へと進むと、やがて木々に覆われた道を抜け、空が開ける。ここは、かかしが住まう不思議な集落。のどかで穏やかな時が流れるこの神池にも、地域をおこす人々がいる。

**山の上の集落に人が訪れる**  
「集まらんろうと思いつたがよ」  
そう切り出したのは、神池活性化委員会の岡本喜身さん。「はじまりは、神池の女性たちが、集落にぎやかさを取り戻したいと言いつつ出たのがきっかけ。こいのぼりでも揚げたらきれいやないろうかと」  
それを受けて岡本享子さんが言う。「若い人がおらんって、何もせんかったらどんどん寂しくなると思いつて。ほんで、家で使わなくなったこいのぼりももらえんか声を掛けてみよう」と「それが思いの外集まってねえ。これはやらざるを得んと」と喜身さんは笑う。  
それから6年。いまでは5月の神池を象徴する風物詩となり、市内外から人々が訪れる。期間中は女池の前の東屋に山のお茶を置き、自由に飲んでもらえるようにしている。山里の温かなおもてなしだ。  
人が来てくれることが、集落を守り、きれいに保とうというモチベーションになっているそう。



来場者と話す画家の椎名寛さん

**つながりを広げていく**  
「今回のイベントで踊ってくれたカヒコダンスのグループを、大川上美良布神社の総代会に紹介したんですよ」と黒岩さんが教えてくれた。11月3日に行われる川上様の秋大祭で、美しくも厳粛なカヒコダンスを披露する計画があるそう。人と人とが知り合い、周りの地域やさまざまな団体へと、つながりが広がっていく。  
「お互いのイベントに顔を出し、協力関係を育んでいければ」と黒岩さん。  
来年は何を見せてくれるのか。昔の青年団の活躍から目が離せない。



昔の青年団の子どもたちも協力。手前では孫の世代が遊んでいる



梅久保に学ぶ

地域おこしのツボ

- 3 **交流人口を増やす情報発信。**  
ネットや人脈を駆使して交流人口(ファン)を増やす。
- 2 **物語(ストーリー)が大事。**  
地域に根ざす歴史や文化を大切にしたり取り組みを。
- 1 **他の地区や団体とつながろう。**  
少ない人手をカバーするお互いさまの協力関係。

### 黒岩世履さんの長女・高木史織さんに、父親たちの活動をどう思うか聞きました

私は現在埼玉県に住んでいますが、父親を含めた地域の人たちが、ふるさとを守ってくれていることにとっても感謝しています。私の子どもたちも梅久保のことが大好きで、帰省の日が決まると、「あと何日で梅久保」と指折り数えて楽しみにしているほどです。

田舎は、あって当たり前ではないんですね。住んでいる人たちが地域を守ってくれているからこそ、私たちも帰ってくる事ができる。大好きな梅久保の元気がなくなるのは寂しいし、地域を守りたいという思いも強いので、私たちもできることをしていきたいと思えます。

現代はインターネットやメールもあるし、田舎と都会の距離が近い。企画や人集めなど、離れていても協力できることはたくさんあると思えます。今回のイベントには県外の友達もたくさん来てくれました。こうして、少しずつ輪を広げていけたらと思えますね。